



大きいイモが採れたよ

サツマイモ大豊作 ひのっこ保育所交流芋掘り

10月8日、津地地区の住民とひのっこ保育所の交流芋掘りが津地地区の畑で開かれました。

当日は、保育所の年少から年長児46人と地元住民が参加。

子どもたちが初夏に作付けし、大きく育ったサツマイモを収穫しました。大きなサツマイモは掘るのが大変。大人に手伝って

もらいながら、自分の顔ほどもあるサツマイモがたくさん採れました。

採れたサツマイモは、その場で焼いもにしたほか、保育所に持ち帰った分はおいもパーティーの材料として、みんなでおいしく食べました。

これは、農地の維持・管理や農業交流活動に支払われる中山間地域等直接支払交付金を利用して行われたものです。



笑顔があふれる敬老会

感謝の気持ちで祝う 黒坂コミュニティ敬老会

10月10日、黒坂小学校体育館で黒坂コミュニティ推進協議会主催の「手作り敬老会」が開かれ、黒坂・菅福地区の75歳以上の高齢者90人が出席しました。

会では、日本舞踊など多彩な催しが行われたほか、同協議会ボランティア部と町社会福祉協議会黒坂配食グループが作った手作りのお弁当が振る舞われ、会場は話の花が咲きました。

ふるさとを大切にしたい

中学校ボランティア清掃

10月13日、日野中学校全生徒が、9つのグループに分かれ、根雨駅や通学路周辺などを清掃しました。

これは、自分たちの暮らすまちを清掃し、ふる

さとを大切にすることを奉仕の精神を育てることをねらいに、生徒会が計画し、行われたものです。清掃する場所も生徒たちのアンケートで決めました。

根雨駅前では、生徒たちが新聞紙で駅舎の窓を拭いたり、トイレ掃除をして汗を流しました。「自分たちで掃除をすることによって、まちの見方が変わる。また、使い方も大事に使うようになる」と指導に当たる先生も気を引き締めていました。



生徒たちは真剣なまなざしで駅舎の掃除を行う

400mリレーの選手
前列左から、佐々木桐子さん(2走)、松本美季さん(1走)
後列左から、坂本有央愛さん(補欠)、石田ユニカさん(4走)、中原杏奈さん(3走)

快挙！県3位入賞 県小学校運動記録会(陸上)

10月14日、鳥取市のコラコーラウエストスポーツパーク陸上競技場で開かれた県小学校運動記録会で、根雨小学校6年生の児童5人が400



mリレーに出場。58秒95の記録で3位入賞を果たしました。

スタートの松本さんは「郡の大会では緊張しなかったが、県は緊張した」、2走の佐々木さんは「バトンの受け渡しに注意しました」、3走の中原さんは「トップに立ててうれしかった」、4走の石田さんは「緊張はしなかった。3位はうれしかった」、補欠でみんなを支えた坂本さんは「3位になれてうれしかった」と全員が笑顔で話してくれました。指導に当たった権代徳徳教諭は「昨年、バトンを落とすところがショックで、今年は繰り返し練習した。5人は練習方法も工夫し、頑張った結果が出たと思う。2年間同じ選手で臨んだ大会。チームワークも抜群だ」と5人を褒めました。

心が伝わる演奏に感動

中学校吹奏楽部コンサート

日ごろから応援してもらっている地域の人たちに感謝を込め、10月16日、町文化センターで日野中学校吹奏楽部による「秋の音コンサート」が開かれました。

迫力ある演奏や3年生のソロ演奏などが披露され、会場は大きな拍手が響きました。部員が18人の吹奏楽部ですが、今年度の全日本吹奏楽コンサート県大会では金賞を受賞しました。

また、根雨小学校の金管バンドがゲスト出演し、吹奏楽部と共演。息の合った演奏を披露しました。



心が一つになった演奏を披露

声援に応じて快走

町駅伝競走大会

10月16日、第51回体力づくり日野町駅伝競走大会を役場駐車場を発着として、根雨まちなかで開きました。

晴天にも恵まれ、沿道での大声援に応えるように、12チームの選手らは2kmのコースを精いっぱい走り抜きました。

【優勝チーム】中学の部＝日野中駅伝A、高校の部＝日野高校野球部B、一般の部＝走る仲間たち、女子の部＝セルフガールズ



デッドヒート！

今年もたくさん飛来

オシドリ観察小屋オープン

11月1日、今年もオシドリ観察小屋（根雨）がオープンしました。

早速、オープンの記事が新聞に載ると、県内外から多くの観察客が訪れました。観察小屋の中で静かにオシドリを観察すると、その美しさに見とれてしまいます。オシドリがいなくなる3月末まで観察することができます。

また、観察小屋近くのオシドリ資料館も開館。オシドリに関する資料や喫茶スペースがあり、観察客の交流の場になっています。



県内外の観察客が訪れる

心癒やす絵の魅力

色彩と墨彩の絵画展

10月25日から27日まで、山村開発センターを会場に、根雨の植木正枝さんの水彩画と黒坂の小早川凡親さんの墨彩画が飾られた「色彩と墨彩の絵画展」が開かれ、多くの入場者でにぎわいました。

これは、植木さんが、小早川さんに声をかけ実現したもので、植木さんは「絵を描き始めて5年になります。気に入った風景などをデッサンや写真で残し、後でアクリル絵の具を使って色を付けます。絵画教室にも通っています」と笑顔。来場者に飾ってある絵の思い出を話しました。

小早川さんは「墨彩は見るのも描くのも好きです。墨でしか出せない濃淡などが魅力ですね。描いていると心が癒されます」との魅力を語りました。



絵の思い出を語る植木さん（左）

キラリと光る、あなたの声や地域・職場での話題をお寄せください。お待ちしております。

★役場 企画政策課（電話 72-0332）